

中国地方建設技術開発交流会 基調講演



テーマ：安全で、安心して暮らせる地域づくりを支える新しい技術—地域防災対策支援システム—

講師：山口大学 教授 近久 博志

略歴：2003.04 飛鳥建設(株) 本社 技術研究所 所長

2005.04 飛鳥建設(株) 本社 防災R&Dセンター副センター長 兼 技術研究所 所長

2005.07 飛鳥建設(株) 本社 理事

1999年4月～2004年3月 名古屋工業大学 (建築系) 客員教授

2006年4月 山口大学 地域共同研究開発センター 教授

研究活動・著書他：

- ・地下空間利用施設の計画と設計に関する研究開発
- ・岩盤や地盤を対象にした安定性評価(情報化施工技術)手法の研究開発
- ・岩盤・地盤力学や写真画像分析のための解析手法の開発

表彰：1) 技術開発賞(ダム工学会、1995)

”長谷ダムにおけるダムコンクリートの温度管理システム”

2) 環境デザイン賞(日本騒音制御工学会、1999)

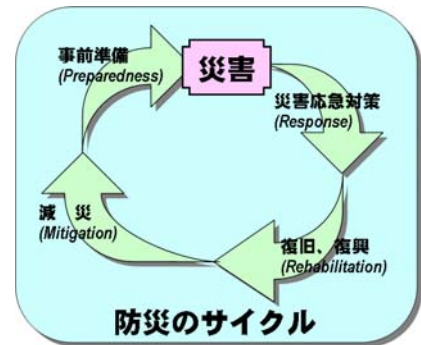
”地下空間の音環境を考えた高山祭りミュージアム”

講演内容等：

防災に関しては、これまで国の重要施策の一つとして従来から積極的な対策が講じられてきたが、近年、緊縮財政の煽りを受けて、その対応が難しくなっている。さらに、地球温暖化を初めとした異常気象の影響を受けて、災害の規模が拡大して状況にある。このため、これまでのように大規模な経費を掛けて災害を防ぐハード的な対応から、発生する災害から人命や財産を守るソフト的な対応の重要性が強調されるようになってきている。経費を掛けずに、被害を最小限に止める減災を実現させるためには、強固で、大規模な構造物の補強や対策工を実施することよりも、災害時の避難誘導や自助・共助の事前シミュレーション、災害の予兆を調べる計測管理が重要な技術課題となる。これらの技術には、山口大学でも早くから技術ニーズの変化に着目した研究開発に取り組み、土木防災情報システム(三浦教授)、土砂災害の警戒避難システム(古川教授)、GPS法面監視システム(清水教授)、NDTコンクリート診断システム(田中教授)、構造物のLCMシステム(宮本教授)、画像解析システム(近久教授)、DIGシミュレーション(瀧本助教授)などをはじめとして、数々の実用的な成果に結びつけてきている。

現在、こうした技術をさらに効果的な活用を図るために、山口大学の研究開発成果を中心とした技術の統合システムの構築を図る予定している。そして、これと並行して、産官公の防災関係者から成る研究会を組織して、みんなで地域防災の方向性やあり方を考え、課題を抽出し、その課題解決のために必要な研究開発を推進していきたいと考えている。

今回、こうした活動を勘案しながら、構築を予定しているシステム概要と組み入れられる研究開発成果とその適用を例証する。そして、ここでの話題をたたき台にして、今後の山口地域における防災について、議論したいと考えている。



地域防災対策支援システム (最終イメージ図)

